http://www.okayama.med.or.jp/activity/kaihou.html

# 岡山県医師会女医部会報

第24号
2017.10.10

岡山県医師会
〒700-0024
岡山市北区駅元町19番2号
TEL 086-250-5111
FAX 086-251-6622
mail:
oma@po.okayama.med.or.jp

INDEX

p1　女性の健康週間　県民公開講座
「楽しく食べて100歳まで歩こう!～骨を元気にするおいしい講座～」を振り返って
p2　「第13回男女共同参画フォーラム」に参加して
p4　第2回岡山県医師会　医師の勤務環境改善ワークショップに参加して
p6　シリーズ女性医師支援　女性医師支援　当院での取組み［榊原病院］

## 女性の健康週間　県民公開講座「楽しく食べて100歳まで歩こう！～骨を元気にするおいしい講座～」を振り返って

岡山市立市民病院／岡山県医師会女医部会部会長　坂口　紀子

三木記念ホール会場

女医部会では、「平成28年度に、女性の関心の深いテーマで健康講座を開く」という計画を立てましたが、何しろ部会としては初めての事業で、テーマと講師の選定、後援依頼、チラシの作成、広報手段、当日の運営など、すべてが試行錯誤の繰り返しでした。どれだけの方が参加してくださるかが最大の不安材料で、地域連絡網やマスコミによる広報はもちろん、部会メンバーは、診察室では文字通り膝を突き合わせて講座の案内をし、行きつけの喫茶店や美容院、趣味の会など、思いつく限りこまめにチラシを配布しました。

倉敷中央病院副院長
松下　睦 先生

その甲斐あってか、当日平成29年3月12日（日）午後、会場には480名が来場され、まず三木記念ホールが満席となりました。さらに5階会議室に急きょサテライト会場を設けましたが、こちらも満席となり、3階ロビーにもモニターテレビを準備し椅子席を設けました。会場脇の三木行治先生の彫像も、喜んでくださっているように見えました。広報、運営などにご協力いただいた関係各位の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

既に岡山県医師会報の第1451号（2017年4月

岡山県南部健康づくりセンター
運動指導員　斉藤　剛 先生

10日発行）に、神﨑寛子理事による開催報告が掲載されています。内容については該当ページの抄録等をご参照頂きたいのですが、演題は講演1.「骨を守る －骨折予防と骨折治療－」倉敷中央病院副院長　整形外科　松下 睦先生、講演2.「お手軽スッキリ体操 」岡山県南部健康づくりセンター運動指導員　斉藤 剛先生、講演3.「骨粗鬆症の予防は毎日の食事から」くらしき作陽大学食文化学部准教授　渡邉和子先生でした。

当日実施した参加者アンケートには、会場へのアクセス、会場設備、講演内容、配布されたレシピブックに対する高評価が記載されていました。また、「これからも健康講座に参加したい」という声も多く、継続開催を後押しされる結果でした。今後、聴講したい内容についての記載欄を設けましたが、その中で最も希望が多かった「認知症」を、29年度講座のテーマに決定致しました。開催日時は、平成30年3月11日（日）の予定です。

くらしき作陽大学食文化学部　准教授
渡邉和子 先生

今回の講座開催の経験より、県民には健康知識の習得に対する潜在的需要が、まだまだありそうです。新医師会館で、快適に、充実した内容の講座を受けていただければ、健康増進と疾病予防に役立つばかりでなく、より多くの方々に医師会の活動内容の一端を知っていただく良い機会にもなると確信しました。

## 「第13回男女共同参画フォーラム」に参加して

岡山済生会総合病院／岡山県医師会女医部会副部会長　渡辺　恭子

7月22日（土）に名古屋市で男女共同参画フォーラムが開かれ、愛知県から男性26名女性40名、他の都道府県から男性73名女性113名、日本医師会から横倉医師会長・今村副会長始め22名と計296名の参加で盛会でした。

メインテーマは「今後10年の医療界で男女共同参画は何を目指すか」で、横倉医師会長の挨拶、大村愛知県知事の来賓挨拶の後、基調講演は「医師の働き方を考える」で産業医科大学公衆衛生松田教授でした。

3月末に出された「働き方改革実行計画」では「時間外労働の上限を原則月45時間、労使が合意した場合は月平均60時間（繁忙期は月100時間未満）」と

し、上限を超えた場合は罰則を適用し、医師は2年間の猶予対象の職種ですが、現状調査では週当たり全労働時間は4割が「60時間以上」、約半数が年休取得は「3日以下」となっており、長時間労働は医師のWork life balance、生活の質の問題だけでなく、疲労蓄積による医療安全の問題につながっています。

フランスでも医師のうつ罹患率は一般人口の2倍で、病院医師のBurn outが問題となり、労働時間に関する法律（1週間の労働時間の上限を48時間他）ができたが、その弊害で人口の4.1%が医療機関にアクセス困難な状況になったため、現在では医師偏在問題や働き方改革としてパートタイム労働・ワークシェアリングの促進 、子育て支援が充実しているとのことです。

「新たな医療の在り方を踏まえた働き方検討委員会」報告では、タスクシェアリング／タスクシフティング（医療事務／医療記録に要する労働時間の20%軽減可能）による本来業務への集中と長時間労働の回避をめざし、多職種によるチーム医療の実践により労働負担の軽減を目指すとのことでした。

男女共同参画委員会報告では、ドクタラーゼ「医師の働き方を考える」コーナーの企画、女性医師に関わる委員会も41都道府県に設置され、女性医師支援センターでは、求職登録者数857名、求人登録件数2341件、就業実績566件で、ホームページの刷新やfacebookの活用、都道府県医師会と連携した全国ネットワークを構築する予定です。

「これからの医療制度改革とそれに伴う医師の働き方の変化」のシンポジウムでは、筑波大学の前野教授から、平成30年からの新専門医制度の導入による働き方の変化 ― 日本専門医機構が認定した施設での研修＝プログラム制にて医師の質の一層の向上を図り、医師の偏在是正の目的でアウトカム基盤型教育に基づき 地域医療従事者や休職離職を選択した女性医師等に対して配慮したカリキュラム制も予定されているとのことでした。

患者の立場からささえあい医療人権センターCOMLの山口理事長は、医師供給量の推計において30～50代の男性医師を「1」としたとき女性医師は「0.8」、60歳以上の高齢医師も「0.8」と見込み、中には1.5 で働いている女性医師もいるが、出産・育児がマイナスにならない対策が必要で、患者側も「どんな時でも担当医が駆けつけて欲しい」は無理なことを理解してほしい。

宏潤会大同病院の吉川理事長からは、宏潤会は404床の救急・急性期病院で大同病院を中核とし複数の外来診療所、老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション等を運営しており、大同こども支援センター、病児保育等の支援とともに、当直なし勤務から時短勤務（外来・病棟・入院患者数は同じで、当直免除の代わり日曜祝日の病棟回診で不公平感をなくす）という様々な勤務体系を作っているため、常勤医師数は130名に増え、男女共同参画はジェンダーによる優遇処置ではなく質の高い医療体制を構築することであると話され、今回、吉川先生はイクボス大賞も受賞されました。

公立陶生病院小児科加藤部長は、第3子出産後も当直や休日夜間の緊急呼び出しでご自身も

疲弊し、他の医師が第一線を離れる現状を小児科教授に相談して「子育て支援」のワーキンググループをたちあげ、大学と関連病院は平成20年から「週30時間当直なし」の短時間勤務で雇用する「子育て支援制度」を始めました。ポイントは1）終了後、当直・当番ありの常勤に復帰する2）人事の数に含めない事（プラス枠）　3）運用はトップの主導・男性医師の参加の3点で、時間制限や入院担当や急な休みなどの問題点はワークシェアリングで解消し、17名が参加し7名が当直ありの常勤に復帰し、入局者は支援制度ができて増加したとのことでした。

Diversity：多様性の尊重…個人の違いを理解し受け入れギャップを埋める努力をすることで人も集まり結果的に業績が上がる。女性医師の占める割合が20%、若手医師が30%を超える今、出産・育児の際キャリアを中断せず続けていく事は大切ですが、他の先生方への不公平感をなくすため 当直の代わりに日直したり、子供が大きくなれば当直に復帰する等、離職を防ぎ長く人材活用していき、同時に医師全体の意識改革と長時間労働を改革することが望まれます。このような機会を与えていただき感謝いたします。

## 第2回岡山県医師会　医師の勤務環境改善ワークショップに参加して

倉敷紀念病院／岡山県医師会女医部会委員　林　里美

### 第2回岡山県医師会　医師の勤務環境改善ワークショップ

日　時：平成29年8月6日（日）14:00～16:00
場　所：岡山県医師会館　4階　401会議室

次　第

| | | |
|---|---|---|
| 14:00～14:05 | 1. 開　会 | （総合司会:岡山県医師会　理事　神﨑寛子） |
| | 2. 挨　拶 | （岡山県医師会　副会長　清水信義） |
| 14:05～14:10 | 3. 勤務医部会総会 | H28年度事業報告・H29年度事業計画 |
| | | （岡山県医師会　副会長／勤務医部会部会長　清水信義） |
| 14:10～14:15 | 4. 女医部会総会 | H28年度事業報告・H29年度事業計画 |
| | | （岡山県医師会　女医部会副部会長　清水順子） |
| 14:15～14:55 | 5. 医師の勤務環境改善へ向けた病院での取り組み | 事例発表（各20分） |
| | | コメンテーター：医療労務管理アドバイザー／特定社会保険労務士　中原　俊 先生 |
| | | ●倉敷中央病院　倉敷中央病院副院長　新垣義夫 先生 |
| | | ●岡山赤十字病院　岡山赤十字病院副院長　岡﨑守宏 先生 |
| | | （座長　岡山県医師会　女医部会部会長　坂口紀子） |
| 14:55～15:55 | （講演45分、質疑応答15分） | |
| | 6. 特別講演 | 「医師の勤務環境改善～健康支援の立場から～」 |
| | | 日本医師会　副会長　今村　聡 先生 |
| | | （座長　岡山県医師会　副会長　清水信義） |
| | 7. 閉　会 | （岡山県医師会　副会長　清水信義） |

倉敷中央病院副院長
新垣義夫 先生

いわゆる医師の長時間労働や過労死問題など、世界第一位と評される日本の医療制度を担う勤務医の労働環境はそれだけに厳しく、勤務環境や健康に関する組織的な取り組みが必要である、とH20年から「勤務医の健康支援に関するプロジェクト委員会」が日本医師会により設置されました。勤務医を対象にしたアンケートを受け、H21年から病院産業医や勤務医の管理者向けの参加型研修会が各地で開催されてきました。

私はそんなことも全く知らず、岡山県での第2回ワークショップに、自分の働き方のヒントになるかしらん、ワークライフバランスの発展形かしらん、などと思いながら何もわからずふらふらと参加してしまったのです。出席されている方々はどう見てもお偉方ばかりで違和感にドギマギしているうちに講演が始まりました。

1題目は倉敷中央病院の新垣義夫副院長から、2題目は岡山赤十字病院の岡﨑守宏副院長から、それぞれの病院の救急部で医師のシフト制や勤務管理、当直明けの休業や入院患者の配分、当直人員の増員など環境改善を行った結果、勤務医や研修医の希望が増え、on/offが明確になったことで子育て世代の医師・スタッフ（女性も男性も）が働きやすい環境になってきた、とアンケート結果を交え、お話がありました。

倉敷中央病院では事業計画に勤務医の健康を守る取り組みを組み入れ、①医師負担の軽減、②女性医療スタッフへの就業支援、③ワークライフバランスの推進（年休取得）を主軸に、上司による時間外勤務や代休取得調整を把握・管理、院長や産業医への報告・面談指導を組み込んだ管理体制の構築がなされていて、また各自で設定するマイ・ノー残業デーなどにより効果が着実に現れている、との報告でした。他には、手術室の見える化により予定手術の増加と時間外手術の減少など稼働率改善と時間外稼働の削減に効果があった、女性医師の採用やイクボス推進、多様な勤務形態を可能にしている、交流エリアや医学図書エリア、職員専用レストランなど羨ましいとしか言いようのないハード面の充実と、笑顔で挨拶がかけあえるルールと雰囲気づくりとあいさつ運動チームによる活動が紹介されました。

両病院とも、以上のような取り組みや事務作業補助者や苦情対応者を設置するなどの結果、医師の時間外勤務時間の短縮、年休取得数の増加、医師の増加、中でも女性医師の増加が見られ、医師の働く環境の改善が数値としても現れてきた、とこれから働く若い医師やスタッフに明るい未来を提示できる素晴らしい成果が得られているようでした。

岡山赤十字病院副院長
岡﨑守宏 先生

日本医師会今村聡副会長からは、大きな視点からの医師確保対策についてご講演いただきました。①医師の健康支援、働き方改革②医師偏在対策・需給推計、③医師養成課程の3本柱に則って、病院管理者の環境改善への取り組みが努力義務として挙げられ、都道府県に「医療勤務環境改善支援センター」の設置が推奨され、「地域医療支援センター」「ナースセンター」の連携で地域の医師・看護師の確保と各医療機関の勤務環境改善を目指すものである、と説明されました。女性医師支援の紹介や健康支援への取り組み、医師の働き方検討委員会などの現状と途中経

日本医師会　副会長
今村　聡 先生

務」と「自己研鑽」のファジーな間隙をどのように扱うか、患者の命か自分の命かのデスマッチというような厳しい対峙をどう鑑みるか。倉敷中央病院では電子カルテのログインが時間外の場合にはクラークによるチェックがなされ残業理由を入力する仕組みになっているということでした。自分の勤務時間の管理、体調管理を含めての「わたしの仕事」と考えてきましたが、自分の働き方を自分で決められなくなるような、自由さが無くなるような気がしたのは私だけでしょうか？何かの縁で就いたこの仕事、さしあたっては生きている間は自分もスタッフも患者さんも楽しんで病と向き合える環境を提供し続けたいものだと思いました。

過についてもお話しくださり、医師の労働改善の背景に医師の偏在や財源問題など大きな困難が覆いかぶさっていることを実感しました。

勤務環境の改善というのは、今までの「業界の当たり前」を覆す壁、法的課題、労務管理の難しさなど、私のような一勤務医には想像も及ばない、多様で広角的な視点と洞察力、判断力や企画力を総合的につぎ込まなければならない大変な事業であると改めて感じました。例えば「業

シリーズ
女性医師支援
病院での取り組み
第18回

# 女性医師支援　当院での取組み

社会医療法人社団十全会心臓病センター榊原病院　理事長　榊原　敬　先生

少子化にともなう生産労働人口の減少、地方ではさらに人口流出が進む現状において、一億総活躍、女性の社会進出なしに日本が立ちゆかない時代となっています。医療の現場においても、医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、管理栄養士、調理師、医療事務など女性が進出していない職種はありません。病院においても女性の参加なしにチーム医療は成り立たないほど、大きなウエートを占めています。従来、女性職員に対する支援は看護師を中心に考えられてきましたが、これからは女性医師を含め幅広い職種で考えていかないといけないと認識しています。

30年前には医学部学生の1割程度が女性でしたが、現在では3割～5割を占めています。今後

女性医師の力なしに医療を行うことはできないでしょう。いかに女性医師に力を発揮してもらうか工夫が求められています。女性医師の働きやすい環境、出産や育児があってもキャリアアップできる配慮が必要になります。一方、女性医師においても、出産、育児だけでなく、医師としての目標をしっかりと見据えたライフプランを考えてもらわないといけません。目標を持つことで、今しなければいけないこと、どんな支援をしてもらうことがいいのかが明確になります。出産や育児など途中で一休みしても、しっかりと再開できるキャリアパスを整備することも必要でしょう。現在当院の女性医師（常勤）は5人で、部長3人、医長1人、医員1人となっています。年齢的にもさまざまで既婚者も独身もおり、出産・育児にさえ対応すればいいというわけではありません。なかには男性顔負けのエネルギッシュな女性もいます。医師としてのキャリアアップ、生きがいを含め、それぞれの価値観に寄り添う配慮も大切と考えています。

さて現場に目を向けると、医師の診療科や地域の偏在の問題があります。大幅な業務負担の軽減も難しく、特定の医師に過度な負担がかからないよう留意しないといけません。とくに当院では心臓大血管疾患を中心に診療しており、救急対応もあるので、男女平等に負担してもらうことが原則です。仕事と家庭の両立は大変なことですが、せっかくの医師の能力を埋もれさせてしまうのは大きな損失なので、何とか上手にサポートを考えていきたいと思います。職場環境は忙しいですが、法律で定められた事項はきちんと守られています。さらに女性医師に対する配慮として、法定を上回る支援策を病院独自に打ち出しています。一つ目は一日労働時間の短縮（6時間以上）を小学校入学までとしています（法定では3歳まで）。二つ目として、病院の近隣に職員子弟のための保育園（1歳～小学校就学まで）を設けており、日勤帯勤務者に対応（延長保育あり）しています。親に安心して働いてもらえるよう、平成24年に保育園を病院の近隣に新設しました。岡山県の担当者から「よくできている」と賞賛された建物・設備となっています。県内の保育園運営で実績のあるアイグラン社に運営委託しています。

当院のような民間医療機関では、限られた施策しか行うことができませんが、知恵を絞り選択と集中することで現場のニーズに合った対策をとることが可能と考えています。職場だけでなく家庭における女性の役割、結婚、出産、育児、就学、

親の介護など年代ごとに、子育て支援以外にもきめ細かい対応をするためには、病院の支援策だけでなく職場の理解や協力が不可欠です。人数の多い部署はどうにかなっても、人数の少ない部署ではやりくりができない場合もあり、職種だけでなくチーム医療を担う者同士が上手に協力しないと支援はできません。専門職種にしかできない仕事もありますが、周辺領域のどちらの職種が行ってもよい仕事についてはお互いに手伝う姿勢が大切です。委員会活動や、プロジェクトチームでの活動を通して組織間の風通しをよくし、顔の見える関係の構築を進めています。こうした病院全体で助け合う取組みが女性医師の支援につながると考えています。

## 平成29年10月～平成30年3月 岡山県医師会女医部会関連行事

10月　1日～31日　**ピンクリボン月間**
　9日(月)・祝　10:20～　**ピンクリボン岡山2017チャリティーコンサート**　岡山県医師会館　三木記念ホール
　14日(土)　13:00～　**ピンクリボン岡山　県民公開講座**　山陽新聞社9階会議室

11月　3日(金)・祝　13:30～16:00　**第8回岡山MUSCATフォーラム**　地域医療人育成センターおかやま 3階
　4日(土)　15:00～17:15　**日本医師会女性医師支援センター事業ブロック別会議**　岡山コンベンションセンター
　12日(日)　**おかやまマラソン(救護室応援)**　ジップアリーナ　他

12月　9日(土)　**女医部会委員会**　岡山県医師会館
　23日(土)・祝　**山陽女子ロードレース(救護室応援)**

3月 11日(日)　**女性の健康週間　県民公開講座　「認知症(仮)」**　岡山県医師会館　三木記念ホール

## 編集後記

朝夕、やっと涼しくなり過ごしやすくなりました。皆様、ご苦労様でした。地球温暖化により、日本は亜熱帯地域化してしまったようで、本当に暑い、危険な夏でした。

父から診療所を継承し、開業医として20年弱になります（驚き!!）。本当は動物が好きで、獣医師になりたかった小学生の私でしたが、父から、その為には大好きな犬の解剖があるのにできるのか、医師になれば犬を治すこともできると言われて納得、今に至ります。

父の代からの患者さんは数十年来の方もいて、地域的にも高齢者の方が多く、昔の話や地域の風習、ご近所の話など色々なことを教えてもらい、楽しくお付き合いをさせていただいているのですが、抱えている生活環境は様々です。家庭医として、患者さんご家族の事情にまで係わる事もあり、医療だけでなく、人生の勉強をさせていただいているように思います。そして、高齢者の方は、訪問診療から在宅看とりまでさせていただく事もあり、人生、寿命について考えてしまいます。在宅医療については、出来るだけ患者さんやご家族の希望にそえるようにとしてきたつもりですが、本当にこれで良かったのかと後悔が残ります。きっと正解はないのでしょう。

悔やむことも残された者の故人への追悼だと自分を納得させて、頑張ります。

岡山県医師会女医部会委員　木村　恵